

2023 年 3 月 10 日

## 通貨ニュース

# マレーシア:3 月金融政策会合～引き続き 政策指針はデータ次第

マレーシア中銀(BNM)は 9 日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利を従来の 2.75%に据え置いた。ブルームバーグの事前予想では現状維持の予想が有力であった。BNMは昨年合計で 100bps の利上げを実施してきたが、国内経済の減速懸念を踏まえて今年は利上げを打ち止めている(図表 1)。

声明文では、前回会合に続いて高インフレに伴う各国中銀の引き締めや地政学リスクの高まりなどの世界経済の下振れリスクを引き続き指摘した。一方で、主要国の経済の堅調さや中国経済の再開期待といった景気の押し上げ要因への言及も見られた。マレーシア経済に関しては、22 年実質 GDP 成長率が前年比+8.7%と 2000 年以来の伸びを記録したことに触れながらも、23 年の予想については、行動制限措置の解除に係る要因の剥落、内需のピークアウト、世界貿易取引の減速などの点を勘案して成長率は鈍化するとしている。

物価動向に関して、1 月消費者物価指数(CPI)は前年比+3.7%、生鮮食品と政府による価格統制品を除くコアベースでは同+3.9%と共に 12 月から減速した。物価変動リスクは補助金充当や一部商品に対する価格統制などの政策動向や商品市況次第としており、概して上方向の動きに警戒感を示しているがそのトーンは過去の会合と比較しても弱まりつつある印象だ。

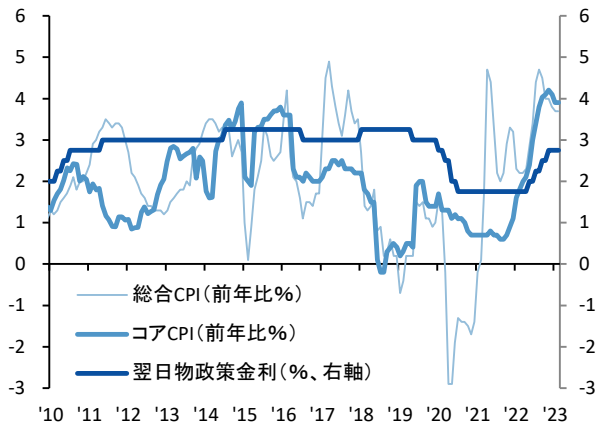
かかる中、前回会合に続いてインフレ動向と先行きの景気動向の双方を注視していく指針の下で、現状維持の決定に至ったと考えられる。今後の動向についても景気やインフレ動向をはじめとしたデータ次第としており、必要に応じて政策金利を上下させる可能性にも含みを持たせた。

MYR の動向については、昨年末から続いていたドル高の調整は 2 月に反転した(図表 3)。国内経済指標で大きな売りに繋がるような材料は無かったが、春先以降も FRB が利上げを継続するといった見方が強まっている点が大きい。3 月 FOMC でのドットチャートの仕上がり次第では昨年 11 月の水準(4.70 台)に近づく可能性にも警戒したい。BNM も積極的に利上げ材料がなくなりつつある中で、想定される利上げの可能性としては昨年にも散見された FRB に追随した利上げであるように思われる。マレーシアも含め域内の為替動向は昨年にも経験した外部要因に振られる状況に逆戻りしつつある格好となっている。

需給面を見ても資源価格の調整が続いていることから、昨年の盤石さはなくなると考えている。図表 4 に示される通り、輸出自体の伸びと米国や ASEAN 諸国向けの輸出は完全にピークアウトしており、近年落ち込んでいた中国向けの輸出に頼らざるを得ない状況とも言える。また、BNM は中国経済の再開期待の一環で中国人観光客の受入れ増加を見込んでいるが、マレーシアを訪れる中国人観光客は全体の 1 割程度に過ぎず、GDP の押し上げ効果も些少であると指摘もあり、過大評価もしにくいのが実情ではないか。

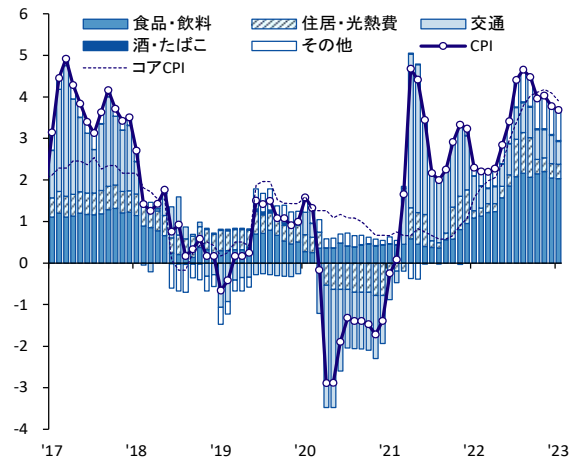
市場営業部  
マーケット・エコノミスト  
堀 堯大  
03-3242-7065  
[takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp](mailto:takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp)

図表 1: 政策金利と消費者物価指数



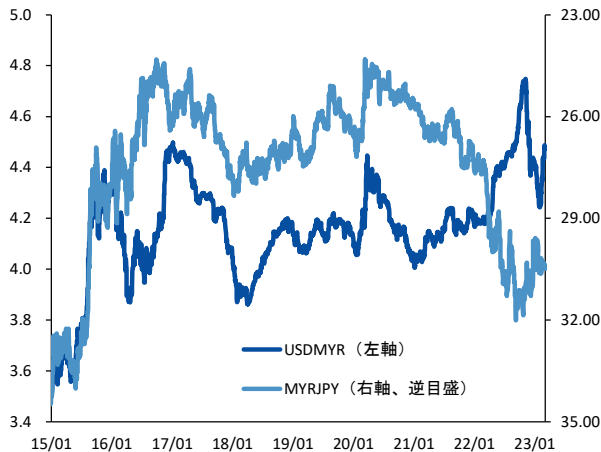
出所: マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価指数の動向 (前年比%、%ポイント)



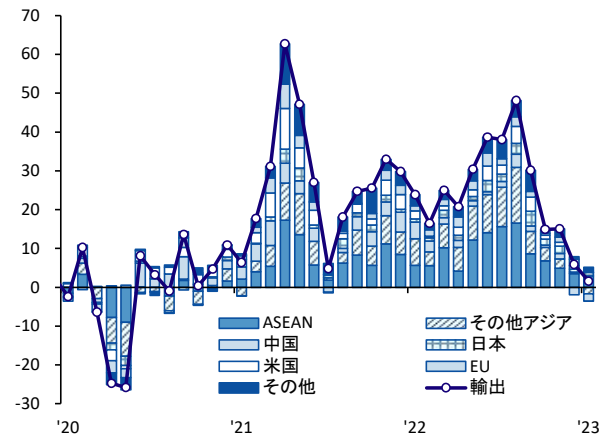
出所: マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 3: MYR の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 地域別輸出状況 (前年比%)



出所: CEIC、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。